

## (議事要旨 2) IFRS のエンドースメント手続について

企業会計基準委員会 (ASBJ) 小賀坂副委員長より、企業会計審議会より公表された「国際会計基準 (IFRS) への対応のあり方に関する当面の方針」を踏まえ、ASBJ が実施する IFRS のエンドースメント手続に関する計画案の概要の説明がなされた。その後、以下のとおり、基準諮問会議の委員より意見及び質問が出された。

- スケジュールについて、個別基準の検討の開始から概ね 1 年ということであるが、来年の今頃に向けて、2012 年末までに公表された IFRS についての評価が行われるという理解で良いか。
- 作業部会の規模はどの程度で考えているか。また、来年の夏頃に会計基準として体系化されたものが、一斉にエンドースされるという理解で良いか。
- エンドースメントの作業に ASBJ のリソースが割かれることにより、日本基準の開発等に遅れが生じないようにして頂きたい。
- エンドースメントの議論と日本基準等の議論とは内容が異なるので、企業会計基準委員会において、きちんと分けて議論するように留意して頂きたい。
- パブリック・コメントの方法は具体的にどのように考えているか。全部まとめて公表されても、関係者が検討しきれないという懸念がある。
- エンドースメントする際の判断基準の一例として、「会計基準の基本的な考え方」を勘案するという記載があるが、具体的にはどのような考え方として整理しているのかお聞かせ頂きたい。
- 開発に当たっては、作成者側のニーズと投資家の納得感を優先して考慮頂きたい。また、修正又は削除は海外に対して合理的に説明できる範囲に限定して欲しい。

これらの意見及び質問を受け、ASBJ 小賀坂副委員長から以下の発言がなされた。

- スケジュール感としては、作業部会をなるべく早く立ち上げて検討を開始し、パブリック・コメントの手続等も経たうえて、最終的に来年秋ぐらいを完了の目標としたい。
- 作業部会の規模、人選は、今後企業会計基準委員会において検討する予定である。
- エンドースメントの作業について、スタッフのアサインを検討中であるが、日本基準の開発等に支障が無いように努める。
- パブリック・コメントの方法については、今後、検討を行う。全部まとめて公表すると量が多い懸念があるが、一方で、全体像が見えないとコメントしづらいとも思う。
- 「会計基準の基本的な考え方」については、これまで ASBJ が主張してきた当期純利益の考え方や公正価値測定範囲等が考えられる。ASBJ がアジェンダ・コンサルテーションなどで IASB に対して主張してきたことが、検討の出発点になるのではないかと思われる。

また、ASBJ 西川委員長より以下の発言がなされた。

- 今後 ASBJ は、国内基準の開発、国際的な意見発信、IFRS のエンドースメントの 3 つの役割を担うこととなる。それぞれの知見を生かしつつ、立ち位置の違いを調整しながら進めていきたい。

これらの発言を受け、議長から以下の発言がなされた。

- 基準諮問会議の立場としては、今後、IFRS のエンドースメントのプロセスが進んでいく中で、ASBJ より状況報告を頂き、アドバイスをすることになるため、引き続きご検討をお願いしたい。

以 上